【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成25年4月11日(2013.4.11)

【公表番号】特表2012-517031(P2012-517031A)
【公表日】平成24年7月26日(2012.7.26)
【年通号数】公開・登録公報2012-029
【出願番号】特願2011-548504(P2011-548504)
【国際特許分類】
Ｇ１０Ｌ　13/033　(2013.01)
Ａ６１Ｆ　2/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ１０Ｌ　13/02　１２１Ｚ
Ａ６１Ｆ　2/20

【誤訳訂正書】
【提出日】平成25年2月21日(2013.2.21)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項１】
デジタル化された音声信号を用いて電気喉頭（ＥＬ）話者の音声品質を向上させる方法であって、以下の工程：
ａ）時間領域から離散周波数領域へ単一チャネル音声信号を転送することによって、前記単一チャネル音声信号を一連の周波数チャネルに分割する工程；
ｂ）各周波数チャネルにおいてハイパスフィルタ又はノッチフィルタを用いてＥＬの変調周波数をフィルタ処理して除去する工程；及び
ｃ）フィルタ処理音声信号を周波数領域から時間領域に逆変換し、そして、それを単一チャネル出力信号に結合する工程；
を特徴とする、前記方法。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項２】
工程ａ）の音声信号の転送をフーリエ変換によって行い、そして、工程ｃ）の逆変換を逆フーリエ変換によって行うことを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】請求項３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【請求項３】
工程ａ）の音声信号の転送及び工程ｃ）の逆変換を対応するフィルタバンクを用いて行うことを特徴とする、請求項１に記載の方法。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００２２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２２】
本発明の変形態様によれば、工程ａ）の音声信号の転換及び工程ｃ）の逆変換を対応するフィルタバンクを用いて行う。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３１】
今や、時不変信号経路からの信号部分及び時変信号経路からの信号部分は分離することができ、経時的に変化する全ての信号部分又は時不変である全ての信号部分のいずれかが減衰される。従って、例えば、時変部分Ｓ１（ｗ，ｔ）～ｘ（ｗ）Ｈ（ｗ，ｔ）だけが結果として得られる。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４０】
本発明は、例えば、電話で話すときに追加のデバイスとして用いることができる。従来のアナログ電話の場合には、デバイスは簡単にイヤホンに統合される。統合されたデジタル信号プロセッサを備えた電話の場合には、ソフトウェアプラグインを用いて本発明を統合することができる。また、固定された有線での解決の範囲内で、例えば、アナログ回線においても本発明を実現することができる。また、ハードウェアによる解決手段の枠組みの範囲内において、例えば、アナログ回路においても、本発明を実現することができる。